

本山更生会の残土置き場

3月2日、豊丘村の本山更生会(ほんやまこうせいかい=伴野区、福島区、壬生沢区で構成の森林管理組織)の総会はリニアの伊那山地トンネルから出る残土の受け入れを決定しました。受け入れ量は130万立米。場所は虻川支流のサースケ洞の最上部の約8ヘクタール。

サースケ洞と虻川の合流点から少し上流に日向山ダムという砂防堰堤があります。このダムより上流にはいくつもの支流があります。日向山ダムはこれらの支流からの砂を貯めるわけです。

日向山ダムと残土置き場の大きさを比べてみると残土置き場の方がはるかに大きいのです。つまりこの残土置き場の土砂の量は日向山ダムが長い年月をかけて貯める砂の量よりはるかに多いのです。

残土盛土は自然に逆らう行為です。やはり崩れた

場合に備えなくてはなりません。130万立米の土砂を受け止める新たな砂防堰堤が必要です。JR東海がそこまで面倒をみるのでしょうか。

県や国の治山治水の担当機関は河川の上流部の谷に大量の残土盛土が行われることを想定して治山治水を行って来たのでしょうか？

日本の国土でトンネルが必要不可欠の直線の路線計画はもともと無理なのです。

